

22 『阿弥陀経』の思想

【全2回】／開催方法：対面併用

おか
岡

ひろし
宏



近畿大学生物理工学部
講師
中村元記念館
東洋思想文化研究所
研究員

受講料 会員料金：¥4,200 早割価格：¥3,200(納入期限：12月8日)

【日程・時間】【全2回】

12月12日(土) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

■受講に必要なもの

[テキスト] レジュメ配布

『阿弥陀経』は、天台宗・浄土宗・時宗・浄土真宗などにおいて所依とされてきた経典の一つで、サンスクリット語原典のほか、チベット語訳、ウイグル語訳など複数の言語による異本も存在します。

また漢訳では、鳩摩羅什訳の『仏説阿弥陀経』、玄奘訳の『称赞浄土仏説撰受経』があります。この講座では羅什訳『仏説阿弥陀経』をテキストに用い、『阿弥陀経』における思想上の課題について、その説意を考えます。

『阿弥陀経』における思想上の課題（疑問）

- ① 序分の後に別序がないのは、なぜか
- ② 舍利弗は35回の呼びかけ（羅什訳）に対して、なぜ一度も応えなかったのか
- ③ 羅什は「極楽」表記を阿弥陀経のみで用いたのは、なぜか
- ④ 「極楽」（阿弥陀仏国土）は、なぜ西方なのか
- ⑤ 「浄土」という用語が阿弥陀経（羅什訳）で用いられないのは、なぜか
- ⑥ 六方諸仏（36仏）とは
- ⑦ 西方「無量寿仏」の讃嘆とは（羅什誤訳の可能性？）

などについて思想的意味を尋ねてみます。

お気軽にご聴講ください。

第1回「阿弥陀経の思想①」

第2回「阿弥陀経の思想②」